

「新美祢市病院改革プラン」点検・評価報告書

1. 平成 29 年度美祢市病院事業報告

(1) 患者数

ア 市立 2 病院全体

市立 2 病院全体の延入院患者数は 7 万 1,742 人で、前年度に比し 1,023 人の増、外来患者数は 7 万 35 人で、前年度に比し 321 人の増となりました。

イ 美祢市立病院

美祢市立病院においては、延入院患者数は 4 万 2,793 人で前年度に比し 2,208 人の増、1 日平均入院患者数は 117.2 人で前年度に比し 6 人の増となり、延外来患者数は 3 万 9,333 人で前年度に比し 367 人の減、1 日平均外来患者数は 156.3 人で前年度に比し 2.6 人の減となりました。

なお、病床利用率は 80.9%となり、患者 1 人当たりの収益は、入院 2 万 3,908 円、外来 1 万 1,351 円となっております。

ウ 美祢市立美東病院

美祢市立美東病院においては、延入院患者数は 2 万 8,949 人で前年度に比し 1,185 人の減、1 日平均入院患者数は 79.3 人で前年度に比し 3.3 人の減となり、延外来患者数は 3 万 702 人で前年度に比し 688 人の増、1 日平均外来患者数は 125.8 人で前年度に比し 1.8 人の増となりました。

なお、病床利用率は 79.3%となり、患者 1 人当たりの収益は、入院 2 万 4,352 円、外来 6,664 円となっております。

(2) 収益的収支

ア 市立 2 病院全体

平成 29 年度の市立 2 病院事業の収益的収支は、事業収益 32 億 6,290 万 3,567 円、事業費用 33 億 8,143 万 425 円を計上し、差し引き 1 億 1,852 万 6,858 円の経常損失となり、これに過年度の退職引当金を精算するため特別損失として 1 億 148 万 9,000 円を計上したため、2 億 2,001 万 5,858 円の純損失となりました。その結果、この純損失に前年度未処理欠損金の 3 億 1,886 万 245 円を加え、5 億 3,883 万 6,103 円の未処理欠損金となりました。

イ 美祢市立病院

美祢市立病院は、事業収益 19 億 4,062 万 1,424 円、事業費用 20 億 5,769 万 495 円で、差し引き 1 億 1,706 万 9,071 円の経常損失となりました。

一定期間における入院患者の平均在院日数の延伸など入院基本料の算定要件の未達による入院基本料の減算というマイナス要因がありながらも、入院患者の増加による医業収益の改善により前年度に比べ経常損失を大幅に縮減しました。

しかし、特別損失として 4,275 万 2,000 円を計上したため、1 億 5,982 万 1,071 円の純損失となりました。

ウ 美祢市立美東病院

美祢市立美東病院は、事業収益 13 億 3,756 万 1,083 円、事業費用 13 億 3,901 万 8,870 円で、差し引き 145 万 7,787 円の経常損失となりました。これは、入院患者の減少による入院収益の減収が主な要因ですが、周辺病院における病床機能の転換といった動向が大きく影響しているものと推測されます。

これに特別損失として 5,873 万 7,000 円を計上したため、6,019 万 4,787 円の純損失となりました。

(3) 基本方針に基づく取組施策等

ア 市立 2 病院全体

- 市立 2 病院のもつ基本的な機能や役割（強み）、また、「一人ひとりの患者さんに着目し、総合的に診療する」といったメリットについて、MYT による自主制作番組の放送や広報げんきみね（病院だより、コーナー企画「暮らして美祢」）、さらには病院事業局HPへ掲載し、市立 2 病院を身近に感じていただけるよう情報の周知を図ってきました。
- 市立 2 病院で取り扱う医薬品や医療材料の購入、また病院内の業務委託に係る経費に関する価格交渉について、コンサルタントを活用し、物品・サービスに係る契約の適正化に取り組んだことにより一定の経費削減効果を得たところです。
- 病院事業局として、本県の基幹病院である山口県立総合医療センターを所管する山口県立病院機構と美祢市の間で、医療・看護の質向上及び

地域の安定的な医療提供体制の確保を目的とした「美祢市と地方独立行政法人山口県立病院機構との医療連携に関する協定」を平成 29 年 9 月に締結しました。

このことにより、今後、山口県総合医療センター等との連携により、医療・看護の質の向上に向けて取り組んでいくこととします。

イ 美祢市立病院

- ・ 美祢市立病院では、平成 29 年度において、市内診療所（介護施設の嘱託医を含む）からの紹介患者数が 548 人（対平成 28 年度比 81 人増）と紹介率が向上しており、このことは地域内における病院・診療所の連携が進みつつあることがうかがえます。

また、休日・夜間における救急患者の受入数については、救急診療所の新設により約 200 人減少したものの、救急受入から入院加療へつながった患者数は 323 人（対平成 28 年度比 29 人増）と増加しており、地域における美祢市立病院の基本的な役割を担ってきたものとうかがえます。

- ・ 美祢市立病院では、平成 29 年度から在宅医療分野への体制整備により、山口大学医学部総合診療部が所管する「総合診療専門医プログラム」の研修施設として認定を受け、今後、総合診療専門医を目指す研修医・専攻医の受入れを行っていくこととします。

なお、山口県立総合医療センターが所管する「長州総合診療プログラム」の研修連携施設に美祢市立病院、美祢市立美東病院の市立 2 病院が既に認定され、今後、山口大学・山口県立総合医療センターとの連携により、地域医療への貢献を志す医師の確保につなげていくこととしています。

ウ 美祢市立美東病院

- ・ 美祢市立美東病院では、医師の専門性を活かした「肝疾患専門外来」や「漢方外来」を開設しています。

また、特定の疾病に限らず、患者の身体の状態に加え、心理的・社会的問題も含めて総合的に対応すること、さらには必要に応じて専門医との間の橋渡しの役割を担っていくため、平成 29 年 10 月に「総合診療外来（兼相談窓口）」を開設しています。

2. 平成 29 年度における各種経営指標の数値目標と達成度

○美祢市立病院

| | 経営指標の数値目標と達成度 | | | | | 特記事項 |
|-------------------|---------------|-----------|-----------|----------|--|--|
| | 単位 | H29 目標 | H29 実績 | 達成 状況 | | |
| 1 病院機能・収益向上に関する指標 | | | | | | |
| ① 入院患者数(1日当たり) | | | | | | |
| 一般 | 人 | 80.2 | 69.8 | △ | | 病床機能の転換を踏まえて目標数値を再設定する |
| 療養 | 人 | 46.8 | 47.4 | ○ | | |
| ② 外来患者数(1日当たり) | 人 | 175.6 | 156.3 | △ | | ・新規診療所開設及び整形外科、小児科診療日数減少による ・目標数値を再設定する |
| ③ 救急受入件数(年間) | 件 | 860 | 664 | × | | ・新規救急診療所の開設による ・目標数値を再設定する |
| ④ 紹介率 | % | 35.0 | 46.1 | ○ | | |
| ⑤ 逆紹介率 | % | 18.0 | 19.1 | ○ | | |
| ⑥ 在宅復帰率 | % | 96.0 | 89.1 | △ | | 病床機能の転換を踏まえて目標数値を再設定する |
| ⑦ リハビリ件数(年間) | 件 | 12,750 | 11,349 | △ | | 作業療法士1名減による |
| 2 経費削減に関する指標 | | | | | | |
| ① 職員給与費対医業収益比率 | % | 56.4 | 71.1 | × | | 医業収益の目標未達及び期末勤手当支給率の改定による |
| ② 材料費対医業収益比率 | % | 16.6 | 17.2 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| ③ 委託料対医業収益比率 | % | 14.0 | 14.4 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| 3 収支状況に関する指標 | | | | | | |
| ① 経常収支比率 | % | 101.9 | 94.3 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| ② 医業収支比率 | % | 92.0 | 84.1 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| ③ 資金収支(単年度) | 百万円 | 6 | △ 194 | × | | ・医業収益の目標未達による ・特別損失による |

○美祢市立美東病院

| | 経営指標の数値目標と達成度 | | | | | 特記事項 |
|-------------------|---------------|-----------|-----------|----------|--|------------------------------------|
| | 単位 | H29 目標 | H29 実績 | 達成 状況 | | |
| 1 病院機能・収益向上に関する指標 | | | | | | |
| ① 入院患者数(1日当たり) | | | | | | |
| 一般 | 人 | 51.0 | 46.5 | △ | | 周辺医療機関からの紹介患者の減少による |
| 療養 | 人 | 38.0 | 32.8 | △ | | 周辺医療機関からの紹介患者の減少による |
| ② 外来患者数(1日当たり) | 人 | 135.0 | 125.8 | △ | | 高齢化率の上昇に伴う通院困難者の増加及び診療所への受診者の増加による |
| ③ 救急受入件数(年間) | 件 | 1,280 | 1,121 | △ | | 新規救急診療所の開設による |
| ④ 紹介率 | % | 50.0 | 39.8 | × | | ・周辺医療機関からの紹介患者の減少による |
| ⑤ 逆紹介率 | % | 33.0 | 33.5 | ○ | | |
| ⑥ 在宅復帰率 | % | 90.0 | 89.5 | △ | | |
| ⑦ リハビリ件数(年間) | 件 | 9,200 | 14,523 | ○ | | 理学療法士1名増加による。 |
| 2 経費削減に関する指標 | | | | | | |
| ① 職員給与費対医業収益比率 | % | 69.9 | 78.6 | × | | 医業収益の目標未達及び期末勤手当支給率の改定による |
| ② 材料費対医業収益比率 | % | 10.9 | 10.9 | ○ | | 医業収益の目標未達による |
| ③ 委託料対医業収益比率 | % | 15.0 | 15.2 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| 3 収支状況に関する指標 | | | | | | |
| ① 経常収支比率 | % | 100.0 | 99.9 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| ② 医業収支比率 | % | 82.6 | 81.3 | △ | | 医業収益の目標未達による |
| ③ 資金収支(単年度) | 百万円 | △ 19 | △ 78 | × | | ・医業収益の目標未達による ・特別損失による |

3. 平成 30 年度以降における経営改善に向けた取組み

(1) 美祢市立病院

- ・ 入院患者が、より安心して在宅へ復帰するために、入院日数などの制約の大きい一般病床ではなく、病状安定後、時間をかけてリハビリを行うことが可能な「地域包括ケア病床（入院期間最大 60 日）」へ平成 30 年度中での大幅な転換に向けた取組みを実施しています。
- ・ 美祢地域における地域医療機関との連携の一環として、美祢市医師会との連携のもと、日曜日・祝日での休日当番医による一次救急診療について、美祢市立病院を診察の場として実施していけるよう調整を進めていきます。

(2) 美祢市立美東病院

- ・ 美東病院においても、美祢市立病院同様に「地域包括ケア病床」を病室単位での増床に向けた取組みを行っていきます。
- ・ 不足している薬剤師の補充(1 名⇒3 名)を早期に実現し服薬指導加算、退院時指導加算の獲得につなげるとともに、ジェネリック(後発薬品)の使用率拡大を図ります。
- ・ 美東病院独自で運行している送迎バス運行サービスについて、路線バス、ジオタクシーとの連携を意識しつつ、出来るだけ患者の自宅近くで乗降していただくようにする等の運行方法の見直しを行います。
- ・ 地元ケーブルテレビ、市報等を通じて公立病院の「役割」、「強み」をお知らせし、より親しみを持ってもらえるような広報を継続します。

(3) 利便性向上に向けた取組み

病院事業局では、これまで美祢市立病院と美祢市立美東病院の間をつなぐ「病院間シャトルバス」を利便性向上の観点から運行してきました。

しかしながら、病院間シャトルバスは市立 2 病院を起点とし、バスへの乗降車は市立 2 病院に限定されているため、利用者も少なく利便性の高いものとはなっていませんでした。

このたび、美祢市が策定した「地域公共交通網形成計画」の一環として、大田中央バスセンター（美東町）を起点、美祢市立美東病院を經由し、美祢市立病院を結ぶアンモナイト号による新たなバス路線の創設が予定されています。

このことにより、シャトルバスについては、市立 2 病院それぞれの外来診療を受診される市民の皆様の視線に立ちつつ、新たに創設されるバス路

線を補完する形での運行方法へと見直していきます。

さらには、秋吉バス停から美祢市立美東病院へ、複数のバス事業者による乗入便の増便も予定されており、このことは、市民の皆様の通院手段の確保だけでなく、商業施設への立ち寄りも可能となるものと考えています。